

研究・調査報告書

報告書番号	担当
277	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and mortality from all-cause and cancers among 1.34 million Koreans: the results from the Korea national health insurance corporation's health examinee cohort in 2000. 134万人の韓国人における飲酒量と総死亡と癌について:韓国国民健康保険公団検診コホート2000から	
執筆者	
Kim MK, Ko MJ, Han JT	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2010 Dec;21(12):2295-302	
キーワード	
アルコール、飲酒量、死亡率、癌、アジア	
要旨	
背景: 飲酒と癌死亡の関係は、アジア人では、特に女性においてあまり確立されていない。	
方法: 2000年に検診に参加した40-69歳の1,341,393人の韓国人男性・女性の大規模前向き研究から、飲酒量と総死亡、癌死亡の関係を評価した。2001-2005年の5年間の死亡追跡で、19,375例の死亡が確認され、Cox回帰を用いて縦断研究を行った。	
結果: 男性では、飲酒量と総死亡、総癌死亡の間にJカーブの関係がみられた。しかしながら、男女とも大量飲酒では総死亡、総癌死亡ともに正の関連がみられた。飲酒は男性において、肝臓、胃、直腸、前立腺、食道、脳、喉頭、口唇、口腔、咽頭などの癌死亡のリスクと正の関連があり、女性においては、総癌死亡と直腸癌死亡のリスクを高めていた。男性において、腎癌死亡は飲酒量と負の関連がみられた。	
結論: 過剰飲酒は、男女とも、総死亡、総癌死亡、いくつかの癌のリスクを増加させた。女性では、総死亡、総癌死亡には少量の飲酒は望ましい効果はなかった。	